

ゆめみにゅーす



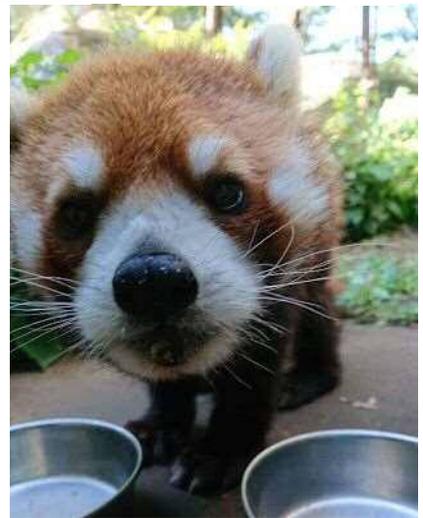
YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 57
発行日 令和2年8月13日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:24種169点
鳥類:25種88点
爬虫類:10種86点
(令和2年7月末日現在)

元気です②

新型コロナウイルスの影響でまだまだ気軽に外出できる状況ではありません。各種イベントも中止となっていますが、動物たちはのんびりできて元気しております。



ペンギンの換羽

フンボルトペンギンの換羽が始まっています。地域にもよりますが、夢見ヶ崎動物公園のペンギンの換羽は毎年真夏です。ただでさえ暑い中、換羽は体力を消耗し、苦しそうにハアハアしている姿に少し心配になることもあります。

成鳥は白いお腹に散りばめられた黒い模様の1枚1枚までそのまま生え替わりますが、2年目の幼鳥はこれまでのヒナの色から成鳥の模様に変身を遂げます。

まったく見た目が変わってしまうので不思議な感じもしますが、本人はもちろん、周囲も気にせずこれまで通り接しています。見た目は大人になっても、行動の端々にまだ成熟しきっていない様子が垣間見え、微笑ましくもあります。

換羽が終わると白い部分は1年で一番真っ白になります。



*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



★ピックアップ動物★

チリーフラミンゴ

鳥綱 フラミンゴ目 フラミンゴ科

チリ、アルゼンチン、ボリビアなど中南米の湖(塩湖)や海岸などで時に数千羽単位にもなる群れを作り生息します。高山にも生息し、藻類や甲殻類などのプランクトンを水ごと口を含み、櫛のようなものがついた嘴で濾しとって食べます。羽毛の赤みはプランクトン由来なので、動物園ではプランクトンの色素を含んだフラミンゴ専用のフードを与えています。

時々「膝の関節が逆向きだ」と言われているのを聞きますが、見えている足の関節は踵の部分なので逆ではありません。ヒトで足の甲にあたる部分がとても長いだけで、膝や大腿は羽毛に埋もれています。

とても警戒心が強く臆病なので、いつも顔を見ているはずの飼育担当が餌を与えに展示場に入った時ですら、群れで一斉に離れていきます。



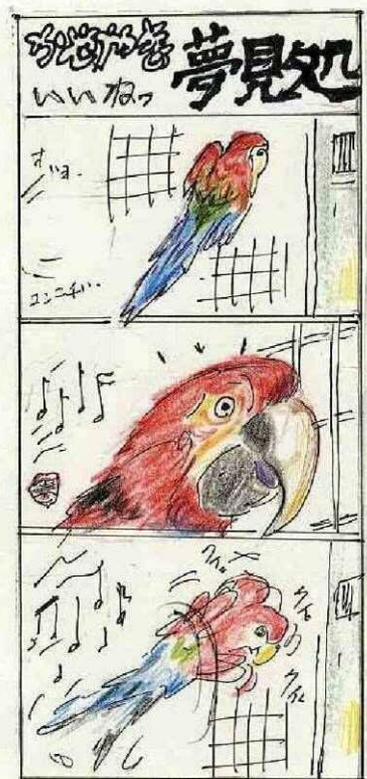
獣医の日記

お客さんから見えない動物病院にはいろいろな動物が入院しています。これを書いている現在は高齢のため群れでやっていけなくなったテンジクネズミや傷病野生鳥獣が数えるのも嫌になるほど、白内障で完全に目の見えないブラウンキツネザルのマロ(34歳のご高齢!)、皮膚の調子が悪いニホンアナグマのきなこや趾瘤症と嘴の不正があるフンボルトペンギンなどなど…。入退院による入れ替わりもありますが、長期の入院から居候と呼べる存在もいます。

ブラウンキツネザルのオス、ユメオもその1頭に仲間入りしました。白内障で目が見えなくなり、朝に部屋から外へ出ると出入りがわからず、夕方部屋に入ることができなくなってしまったので、病院の空き部屋で余生を過ごしてもらうことになりました。

引っ越し当初は緊張して餌を食べられませんでした。今は餌を取り合わなくても十分食べられる環境に慣れ、落ち着いてリラックスしています。視力はほとんどありませんが、明るさはわかるようで、昼間は外を眺め、遠くから聞こえる仲間の声に呼応して鳴くこともあります。

ヒトでは白内障は手術で治る病気です。イヌでも専用のレンズが開発され、手術ができるようになってきました。将来は野生動物である彼らにも手術ができるようになるかもしれません。もちろんそれには獣医が日々勉強しなければならぬので、今日も専門の本や雑誌を読み、最近ではコロナウイルスの影響で開催できない勉強会にもそのうち行き、僭越ながら彼らの役に立つための努力を惜しんではいけないと気を引き締めているところです。



★動物たちの主な移動(令和2年5月1日~令和2年7月31日)★

マーコール(13繁殖、6死亡)、フサオマキザル(性別不明1繁殖)、ブラウンキツネザル(♀1死亡)、ホンシュウジカ(2繁殖1死亡)